

JAPIC

JAPIC
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

NEWS



Contents

巻頭言

「からだに届く、安心を」 カイゲンファーマ株式会社 代表取締役社長 堀 憲夫 …… 2

インフォメーション

薬系大学、医学系大学4年生向けに…………… 4
年末年始休業のお知らせ…………… 4

コラム

会員の声「なるほど!! ビール酵母ね」
アサヒフードアンドヘルスケア株式会社 ヘルスケア事業本部 学術部
エグゼクティブ・プロデューサー 稲村 伸二 …… 5
最近の話題「アカデミアの立場から見たRMPへの期待」
帝京平成大学 薬学部 准教授 齋藤 充生 …… 6
しごと百景「「世界」を手渡す司書の仕事」
株式会社図書館流通センター首都圏営業部 業務本部
大和市立図書館プロダクトマネージャー 佐藤 美加 …… 8
くすりの散歩道 No.82「足がつる方 ご相談ください」
(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 津川 真弓 …… 10
おすすめの一冊「アジア各国の医薬品集(MIMS・MIMS Annual)を受け入れました」…………… 11

トピックス

JAPICサービスの紹介
JAPIC Daily Mail (JDM) サービス…………… 12
JAPIC Daily Mail Extra (JDMエクストラ) サービス…………… 13
JAPIC Daily Mail Plus (JDM Plus) サービス…………… 13
外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より-(抜粋)…………… 14
図書館だよりNo.294 情報提供一覧…………… 15

今月の表紙

カサ・ミラ (バルセロナ)

12

2014 | No.368

からだに届く、安心を



カイゲンファーマ株式会社 代表取締役社長
堀 憲夫 (Hori Norio)

「からだに届く、安心を」

「からだに届く、安心を」、これは当社のコーポレートメッセージです。健康な状態で長生きしたい、健康で安心できる生活を送りたい、そういうお客様の思いを現実にするために、商品、サービスを提供することを当社の使命としています。

言葉でいうのは簡単ですが、誰もが望む健康で安心できる生活を実現するために、何をすればよいか、当社社員1人1人がその実現にいかに関与できるか、日々悩み、業務に取り組んでいます。

平成26年度版「厚生労働白書」は、「健康長寿社会の実現に向けて ～健康・予防元年～」と題しています。その中で、国の取組みとして、次のように、「健康日本21（第二次）」の基本的な方向が示されています。このような国の取組みを理解して、企業としてできることを実行することが、当社のコーポレートメッセージの実現につながると考えます。

「健康日本21（第二次）」の基本的な方向

- ① 健康寿命の延伸と健康格差の縮小
- ② 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底
- ③ 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上
- ④ 健康を支え、守るための社会環境の整備
- ⑤ 栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙、

歯・口腔の健康に関する生活習慣の改善及び社会環境の改善

ここで「健康寿命」という言葉がでてきます。WHO (World Health Organization) が、2000年に「健康寿命」(Healthy life expectancy) という言葉を公表しています。それを受けて、厚生労働省が、人の寿命において「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義しています。

日本人の「健康寿命」

日本人の2013年の平均寿命は男性が80.21歳、女性が86.61歳と発表されています。ところが、健康寿命は男性71.19歳、女性74.21歳で、平均寿命と健康寿命の差は、男性9.02年、女性12.40年、特に女性は、世界一の長寿と言われながら、長い期間を、寝たきりなど、介護が必要な日常生活に制限のある生活をしていることとなります。

東洋医学と西洋医学

当社の代表的な商品は、かぜ薬の「改源」です。「改源」は、大正13年(1924年)の発売から90年もの長い期間、ご愛顧いただいています。生薬と洋薬のダブルの処方の特徴で、生薬で自然治癒力を引き出し、洋薬でかぜのつらい症状を抑えるので、ちょうどよい効き目感

です。

東洋医学と西洋医学とは考え方が異なります。東洋医学は、患者が自分で治ろうとする自然治癒力に従った治療法であり、全身のバランスを整えることを重要に考えます。東洋医学では、根治療法が主流になります。一方、西洋医学は、科学的な視点を重視します。X線検査などで患部を視覚的に特定したり、血液検査での様々な数値で病気を特定したりします。西洋医学の治療は、痛みがあれば、痛みを感じなくする、腫瘍があれば取り除くという対症療法的な治療に陥りがちです。

西洋医学と東洋医学は対立するものではなく、お互いの良いところを組み合わせ、治療効果を上げようと、西洋医学を学んでこられた医師が東洋医学も学ばれているという話を聞きます。がん治療の現場でも、従来の治療に漢方薬を併用することで、免疫力を上げて自然治癒力を引き出すということを研究され、実践されている先生がおられます。

当社は、早くから東洋医学と西洋医学の両方の良いところに注目してきました。

健康寿命の延伸を

健康でいる秘訣は、適度に運動をし、暴飲暴食をせず腹は八分目、十分な睡眠をとり、過度のストレスを受けない。そんなことはわかっているけど、実際には難しいのが現状です。

また、病気ではないが、体調がおかしい、ということは年齢を重ねていけば、誰でも感じることです。身体は、様々な臓器の複雑な働きから、成り立っています。どこかが弱くなったり、過剰に働いたりすると、身体のバランスが崩れ、調子が悪くなり、さらにひどくなると、病気になります。このような本来あるべき身体のバランスを整えることを基本に、体力をあげ、良い状態を維持しようとするのが東洋医学です。

東洋医学には、現在の高齢化社会に対応していくための、いろんなヒントが潜んでおり、当社としても、これまでの延長ではなく、新たな商品、サービスを提供できるものと確信しています。

胃がん検診の受診率向上

国の取組みの1つに、「生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底」があります。厚生労働省は、主要な生活習慣病として、がん、循環器疾患、糖尿病、COPD（慢性閉塞性肺疾患）を挙げ、発症予防と重症化予防の徹底をうたっています。

当社は、バリウム造影剤を提供することで、胃がん検診の普及の一端を担っています。バリウム造影剤は、重晶石を原料とする硫酸バリウムから成ります。昔は、飲みにくく、まずいものでしたが、最近では、改善の余地はあるものの比較的飲み易くなったと言われています。日本での胃がん集団検診は、約60年の歴史があります。当社は、1970年にバリウム造影剤を発売して以来約45年、胃のX線画像がより鮮明になるよう、かつ飲み易いものにするためにバリウム造影剤の改良を重ねて参りました。

胃がん検診の受診率は、男性45.8%、女性33.8%（2013年）と、まだまだ低く、厚生労働省は2016年度には受診率を50%にまで上げることを目標にしています。この分野でも、当社のこれからの貢献が問われるところです。



カイゲンの風神さん

薬系大学、医学系大学4年生向けに

JAPIC「医療用・一般用医薬品集2015」検索用DVDを無償提供！

JAPIC会員サービス及び教育支援の一助として、本年度も10月末にJAPIC医療用・一般用医薬品集2015検索用DVD（非インストール版）を無償提供しました。JAPICでは毎年JAPIC会員の薬系大学、及び医学系大学4年生向けにDVDご利用の希望数を伺っております。本年度は薬系大学約50機関から約9,500枚との回答が寄せられ10月末に送付いたしました。また医学系大学には約80大学から回答をいただき約8,200枚以上のDVDを送付しました。

本事業は3月発行の「日本の医薬品構造式集」の無償提供と合わせ毎年実施しており、本年度10年目となります。「日本の医薬品構造式集」はJAPIC会員の薬系大学の新1年生向けに本年3月には約11,500冊を無償提供いたしました。

医療現場において次世代を担う学生への教育支援として公益事業の一環で実施しておりますが、教育現場で広く有効に利用されているのご報告をいただいております。このような事業を継続できますのも、JAPIC会員の皆様のご支援の賜物と感謝しております。



Windows版

JAPIC医療用・一般用医薬品集2015検索用DVD（非インストール版）

収録内容

- ・医療用医薬品集 ・一般用医薬品集
- ・薬剤識別コード一覧 ・薬価情報
- ・先発品・後発品の全情報 ・添加物情報
- ・医療用医薬品の最新添付文書画像（PDF）の表示機能付き（無料：要インターネット接続。PDFは毎週更新）

*インストール版CD-ROMは14,287円（+税）で別途販売しております。

日本の医薬品構造式集

医薬品の安定性、溶解性などの化学的特性、薬効・薬理が示唆され容易に類似化合物の類推ができる、構造式約1,300成分を一覧化。

薬剤師はじめ化学、薬学領域の学生、研究者にとって不可欠な内容です。

年末年始休業のお知らせ

年末年始休業：平成26年12月27日（土）～平成27年1月4日（日）

新年は1月5日（月）より業務を開始いたします。

— お詫びと訂正 —

2014年9月26日に発行いたしました「JAPIC NEWS 2014年10月号（No.366）」掲載の巻頭言におきまして誤りがありました。正しくは以下のとおりです。

P2左下<世界の中のアツヴィ>内

（誤）クレオン*

（正）リパクレオン

国内未承認医薬品と記載（*付与）しておりますが、国内ではアボットジャパン株式会社が承認を取得し、「リパクレオン」の販売名でエーザイ株式会社より販売しております。

（誤）ノービア*

（正）ノービア

国内未承認医薬品と記載（*付与）しておりますが、国内承認済みの製剤です。

関係者各位にご迷惑をお掛けいたしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

会員の声



なるほど!! ビール酵母ね

アサヒフードアンドヘルスケア株式会社 ヘルスケア事業本部 学術部
エグゼクティブ・プロデューサー
稲村 伸二 (Inamura Shinji)

1. 会社概要 (食・生活におけるお客様との幅広い関係) について

私どもアサヒフードアンドヘルスケアは、アサヒグループの「酒類事業」「飲料事業」「食品事業」「国際事業」の4事業の中で、「食品事業」を通じて、お客様に健康で豊かな生活をご提供する役割を担っています。

当社は、「菓子・食品」、「健康食品・サプリメント」、「指定医薬部外品」、「医薬品」、「酵母エキス」、「フリーズドライ具材」など、「おいしさ」と「美と健康」をキーワードに、お客様の幅広いニーズにお応えするとともに、食・生活シーンにおける新たな価値をご提案することで、お客様の健やかな毎日を応援しています。

2. JAPICとの係わり (JAPICからのプレゼント) について

皆様は、このような食品会社が何故JAPICの情報を扱っているの? と思ったのではないのでしょうか。

私どもの主力事業のひとつであるヘルスケア事業は、1929年1月に「大日本麦酒株式会社」目黒工場内に「エビオス」製造工場を設置して創業、1944年12月に薬品部門を分離して「大日本ビタミン製薬株式会社」として設立しました。その後、改名、朝日麦酒との合併、再度分離独立、吸収合併、改名を経て、「アサヒフードアンドヘルスケア株式会社」に至っています。

この創業以来のロングセラー商品「エビオス」(1930年発売)が医療用医薬品であり、同一の主薬を配合した「エビオス錠」(1930年発売)他が指定医薬部外品であるため、これらに関する有効性・安全性評価のためのツールとしてJAPIC-Qを中心とした安全性情報等の提供サービスを楽しんでいます。

自ら収集できる情報には限度がありますので、JAPICが構築・保有するデータベースより検索結果を定期的に入手できることは、網羅性・的確性・迅速性・効率性等にお

いて大変大きな意義を認識しております。また、JAPICならではの公正性にも大きな価値があると感じています。行政当局による定期査察時において、情報収集の手段としてQサービスを活用していることは最低必要条件との感触を得ています。

また、PMDAホームページへの添付文書のアップデートにおいても、JAPICのサービスを受け助かっております。品目数・リソースの少ない私どもにとっては、大きなシステム投資並びに維持費支出を回避することができます。本年11月に予定される薬事法改正により、これら安全性情報の収集並びに添付文書の届出等においてはより大きな助けとなるのではないのでしょうか。

3. 自己紹介 (会社と私) について

薬学部を卒業した私が何故ビール会社に就職したか? それは単純明快です。アルコール飲料をこよなく愛した学生時代から、就職は酒類会社と決めていたからです。最初に募集が来たアサヒビールに応募したのも、ごくごくシンプルな決断でした。将来は自分の好きなビールを造りたいと目論んで。

しかし、入社後大きな誤算に気づきました。それは、ビールが無料でたくさん飲めるという思い込みは「夢」であったことです。

とはいうものの、毎日仕事上がりのビールを美味しくいただいております。良質なアミノ酸、ビタミン、ミネラル、食物繊維等の宝庫である「エビオス」をツマミに。

最近の話題

アカデミアの立場から見た RMPへの期待

帝京平成大学 薬学部 准教授
齋藤 充生 (Saito Mitsuo)



医薬品の安全性確保のためには、開発から製造販売後まで一貫した安全対策が必要である。ICH E2Eガイドライン（医薬品安全性監視計画の作成）の合意、平成22年の「薬害肝炎事件の検証及び再発防止のための医薬品行政のあり方検討委員会」の「薬害再発防止のための医薬品行政等の見直しについて（最終提言）」の新たな医薬品リスク管理手法の導入の提言を受け、我が国においても、平成25年4月以降に申請する新医薬品及びバイオ後続品には、承認申請時に医薬品リスク管理計画書（RMP）を添付することとなった。また、一変やブルーレター・イエローレター発出など新たな安全性の懸念が判明した既承認の製品の際にもRMPが作成される。

作成されたRMPは医薬品の承認後に順次、医薬品医療機器総合機構のwebsiteで公表されており、新医薬品の審査期間の中央値は12ヶ月程度のため、現在、続々とRMPの公表が進んでいるところである。

平成26年11月から施行される薬事法から改称される「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」でも、「医薬品等の使用による保健衛生上の危害の発生及び拡大の防止」が目的に加えられ、国、都道府県、医薬品等関連事業者等、医薬関係者、国民の各関係者の責務・役割の規定の追加、添付文書等記載事項の届出等を規定している。関係者の責務・役割として、医薬関係者（製薬企業、医療関係者）には、知識と理解を深め、正確かつ適切な情報の提供を、国民には、適正に使用し知識と理解を深めることが求められており、医療関係者、国民の医薬品の適正使用の推進の観点からも、製造販売後の安全対策の青写真となるRMPの公開は時宜にかなったものである。

従来、医薬品の承認審査は、申請時点までのデータパッケージを中心に行われ、製造販売後に収集すべきデータや添付文書案の詳細な検討については、審査の最終段階になってから検討を始めることが多かった。また、審査においても、不足する情報についての照会・回答が占める割合が大きく、最終的には製造販売後のデータ

収集に委ねる部分が大きかったが、その内容の確認は時間的にも十分とは言えないところがあった。

今般のRMPの導入により、重要な特定されたりリスク、重要な潜在的リスク、重要な不足情報が承認申請時点で申請者より示され、審査当局と早い段階で協議を行うことにより、承認審査の段階から、RMPに基づいて添付文書や製造販売後調査計画、患者向医薬品ガイドや適正使用のための資材等の検討がなされることになる。これまで、規制当局も企業も、開発段階と製造販売後の段階で、それぞれ別々の部署が独立して活動している傾向が強かったが、RMPに対応するためには、これまで以上に申請者側の開発・薬事部門と製造販売後部門、規制当局側の審査部門と安全部門の連携が必要になる。このため、RMP導入当初は軋轢も生じうるが、中長期的には、合理的で漏れのない審査・安全対策が行われることが期待される。PMDAでは、従来より、安全第二部に所属するリスクマネージャーが、審査チームに加わって、早期の段階から製造販売後の対策に関与するようになっていたが、当初の各部に1名の体制から、各チームに1名まで増員され、ますます活動に期待が高まっている。

企業側の社内体制についても、昨今の降圧剤の論文不正問題等もあり、外資系を中心に、従来のMRが関与する臨床研究支援から、営業とは独立したMA部門へと再編が進んでいる。製造販売後の企業の活動には、今後も厳しい目が向けられる中で、RMPの導入を契機に、製造販売後の調査項目も整理され、業務の再編が進む可能性もある。

また、医療関係者、国民やアカデミアの立場からは、これまで、製薬企業から医療現場に、添付文書や患者向け説明用資材を含む様々な資材が配布され、製造販売後調査・臨床試験の依頼もなされてきたが、それらがどのようなコンセプトに基づくものかは、承認取得者と当局以外には明らかにされていなかった。このため、当事者以外の者は、審査報告書や文献などから「群盲象を撫でる」ようにその理由を推測するしかない状況にあった。

添付文書や各種資材の設定根拠、製造販売後調査等の実施理由が、RMPとして体系化され、公開されることにより、安全対策の設計思想の見える化が進み、医療機関側の実施のモチベーションの向上や、メリハリのある対応が期待されるばかりでなく、重要な潜在的リスクに挙げられた事項について重点的に確認することで、早期の対応も可能になると考えられる。

このたび制定された「健康・医療戦略推進法」では、「医療分野の研究開発の成果の実用化に際し、その品質、有効性及び安全性を科学的知見に基づき適正かつ迅速に予測、評価及び判断することに関する科学の振興」が謳われ、いわゆるレギュラトリーサイエンスの振興が法律に規定された。RMP導入により、製造販売後の安全対策の方針が見える化されること、また、理想的には、旧来の画一的な使用成績調査に代わり、薬剤疫学的手法等、さまざまな科学的、合理的な安全性情報収集が行われることにより、当該学問分野の活性化や研究活用への糸口もあると考えられる。また、RMPのリスク低減措置の効果判定など、薬剤疫学・医薬品情報学分野での研究活用も見込まれる。

一方で、気になる事項として、RMPの導入は海外で先行しているが、日本では、従来の3000例の使用成績調査を残した形が殆どである。あたかも定食メニューのように、ルーチンで使用成績調査を求める風潮もあると聞くが、費用と医療機関を含めた労力を考えると、各医薬品のリスクの特性に応じて、合理的な計画を立て、その他の手法の導入、置き換えを進めるべきと考えられる。

また、日本のRMPは、添付文書（既承認品では既存添付文書、新有効成分では類薬）との整合を重視する余り、リスクの追加や削除など、海外の内容と異なったものを求められているという声もあるようだ。添付文書記載項目等で、国際的な違いがあるのは確かであるが、医薬品のリスクそのものは国毎に違いが生じるとは考えにくく、規制への適合はリスク最小化策への落とし込みの際に添付文書への記載の要否等で反映されるべきであり、リスクの特定には科学的な判断と運用が求められる。

企業の側の問題として、現在はRMPのマスタープランのみが公表され、そこで作成する資材は統一的に示されていない。安全対策の観点からは、広告宣伝的な要素を兼ねた従来の販売促進用パンフレット類と、RMPにより

作成された資材については明確に区別される必要があるが、必ずしも明確になっておらず、MRからも特に区別なく配布されていることがあるようだ。資材にRMPに基づくものか否かを示すとともに、性質の違いを踏まえた配布が必要と考えられる。アカデミアの立場としても各種資材の種別や利活用状況を入手、解析することでその実効性の検証を行う必要を感じている。

今後の課題として、近く、後発品へのRMP導入も始まるが、その際、リスク、不足情報は同一でも、調査方法やリスク最小化策が異なってくる可能性があり、医療現場に混乱を生じないようにする必要がある。もちろん、先発品の対策が最善とは限らないが、特に資材等の内容に齟齬が生じていないか、アカデミアの立場からの検証も必要と考えられる。

最後に寄稿の機会をいただいたJAPICへの期待を挙げたい。これまで、JAPICでは、添付文書情報に加え、審査報告書などについても、独自に加工するなどして、公開してきた。

現在のPMDAでの公表は、作成された現物であり、迅速な公表は評価できるが、改訂されるたびに上書きされてしまい、過去の内容が分からないという問題点がある。どこが変更になったか、どのようにしてリスクが追加、変更されたかの情報が必要であると考えられる。表示方法についても、現時点では、RMPは製品名毎に配列されているが、すでに数十品目が掲載され、目視での検索が難しくなっている。また、公表されているRMPはpdf形式に変換されているため、印刷や閲覧はできるが、表組みが多いため加工が難しく、医療機関でのカスタマイズやアカデミアでの研究に際して、利活用しにくい。添付文書や審査報告書のように、PMDAとは独立に、JAPICで編集可能な形で一般名や薬効などでの検索機能を付してアーカイブを公開することを期待したい。

しごと 百景

「世界」を手渡す司書の仕事

株式会社図書館流通センター首都圏営業部 業務本部
大和市立図書館プロダクトマネージャー
佐藤 美加 (Sato Mika)



私は2008年冬から2014年の春まで、長崎市立図書館で司書として働いていた。司書という職業がどの程度世間に認知されているかは分からないが、おそらく司書の仕事内容まで熟知している人は少数だろう。司書の仕事といえば、真っ先に思い浮かぶのは本の貸出や返却、そして返却された本を棚に戻す配架ぐらいかもしれない。

実際に職場体験にきた中学生に「図書館や司書のイメージ像」を事前アンケートで質問すると「静かなところ」「本が好きな人が行くところ」「図書館の人はカウンターで好きな本を読んでいそう」そして中には「楽そうだから図書館を職場体験の場所を選びました」という答えまである。しかし、実際に職場体験を終えて感想を尋ねてみると「体力仕事だった」「座っている暇なんかない」「バックヤードの仕事が大変」そして「利用者の色々な質問に図書館の人が答えているのがすごいと思った」など、180度違った答えが返ってくるのである。

この「利用者の色々な質問に図書館の人が答える」仕事こそ、図書館の重要なサービスのひとつである「レファレンスサービス」である。レファレンスサービスとは、利用者が知りたいこと、調べたいことに対し、図書館員が本や雑誌、インターネット情報など様々なツールを駆使し、利用者が回答にたどりつけるように援助するサービスのことを指す。人生相談や美術品の鑑定、そして小学生の学校の宿題など、図書館が答えられない質問も多少はあるが、私が司書になったころ「カウンターは図書館の顔、レファレンスは図書館の華」と言った先輩がおり、まだまだ未熟だった私はいわゆる「レファレンス・ライブラリアン」に強い憧れを抱いていた。

数年がたち、あるとき私はひょんなことからレファレンスサービスの担当になった。憧れのレファレンスサービス

担当とは言え、実際に利用者の相談を聞くときは毎回ドキドキしていた。レファレンスサービスに関する教本はいくらでも出版されており、そのページを開けば「こんな質問にはこう答えます」という、いわゆる模範解答がたくさん載っている。しかし、実際の現場で相談されることは「昔、女学校時代に教えてもらった歌のタイトルが思い出せないの」と言って目の前で見事な歌声を披露されたり、「遺書の書き方を知りたいの」と、ギョッとするような相談をされたり（あとから「遺書」ではなく「遺言」の間違いであることが判明）するのだ。

私は現場の司書として約4年間レファレンスサービスを担当していた。その中でも、専門として取り組んでいたのが医療や健康に関するレファレンスである。意外に思われるかもしれないが、図書館に自分の健康のことや、家族の病気のことを調べに来る人は決して少なくはない。健康に関する本や医学書を並べた本棚の前には必ずいつも人が立っており、分野別で見ても医学書の貸出率は非常に高いのだ。詳細は割愛するが、以前は、公共図書館で医療や健康に関する相談に応じることはタブーとされていた。司書は医療の専門家ではないがゆえに、回答に責任が持てないのがその理由である。しかし、少子高齢化が進行する中、健康や医療に対する社会の意識が高まるにつれ、次第に情報そのものが求められるようになった。その結果「どこの病院がおすすめか」「どの治療法がベストか」など、司書の判断を必要とする相談を除き、医療や健康に関する相談を受けることが容認されるようになった。（あくまでも司書が行うのは「情報源の提示」であり、選択するのは相談者なので司書の責任は発生しない）

医療や健康に関する相談の中でも、飛び抜けて多

かったのが悪性新生物、いわゆる「がん」に関する相談である。その相談内容は「肺がんについて調べたい」というストレートなものから「家族ががんになった。これからどうやって支えていけばいいのか分からない」など、精神的な不安に関与するものなど様々であった。病気や健康の相談は、言うまでもなく非常にデリケートである。レファレンスカウンターには、どうしても情報を探し出せなかった人、また情報の探し方が分からない人がやってくる。その人がどんな情報を必要としているのかを聞き出すためには、相手の話に耳を傾け、質問を重ね、要求を引き出していかなければならない。これを図書館用語ではレファレンスインタビューと呼ぶ。このレファレンスインタビューは、相談者の「真の要求」を明確にする上で重要な役割を果たしているのだが、病気に関する相談の場合は、相手に「この人になら話しても大丈夫」としてもらえよう、会話の中で安心感を与えながら質問を行う必要がある。

健康や医療に関する相談の中でも、薬について調べたいという人は多い。ほとんどの場合が「病院でもらった薬の副作用を調べたい」という内容で、レファレンスカウンターにやって来るのは高齢者が中心である。薬そのものや副作用について調べる方法やツールはいくつかある。簡単なものであれば『家庭の医学』で十分こと足りるし、インターネットでもエビデンスに基づく医薬品情報を調べることができる。前者であれば、高齢者でも自分で調べることも可能だ。

昔、薬に関する相談で忘れられない出会いがあった。いつものようにレファレンスカウンターに座っていると、60代ぐらいの品の良い女性がやって来て「薬の副作用について調べたいのですが」と相談を受けた。着席を促し、お話の続きを伺おうとしたところ、突然「私何歳に見えますか?」と聞くのである。内心「薬の副作用と何か関係があるのかしら…」と思いつつ「55歳ぐらいですか?」と答えてみた。(この場合、見た目年齢より若く答えることは鉄則である)するとその女性は信じられないことに「もうすぐ75歳なの」と言うのである。驚いていると「私って若くて元気に見えるでしょう。でも実際はおばあちゃんだし、体は病気のデパートなのよ」と話を始めたのである。さらに話を伺うと、がんを患い、たくさんの薬を服用しているとのこと。ただその副作用がつかなく、それを抑えるため

に他の薬を飲んでいるので全7種類の薬の副作用をきちんとおさらいしたい…という相談であった。その方は非常に前向きに病気に向き合っており、こちらとしても全力で対応したい(もちろんいつも全力である)との思いから、私は棚から『JAPIC医療用医薬品集』『JAPIC一般用医薬品集』を手を取った。この2冊は公共図書館で所蔵するには専門性が高い参考図書だが、昔、医療健康情報サービスの先駆者的存在である横浜市立図書館に行った際に所蔵してあるのを見て「長崎市立図書館にもぜひ欲しい」と、あえて揃えた経緯があるので、私はことあるごとにこの2冊を使用していた。

早速相談者に2冊を紹介し「今から調べますね」とページを開いた。大抵の場合、司書が調べ始めると、それが終わるまで待っている人が多いのだが、その女性は「それどうやって調べるの?」と身を乗り出してきた。私はいったん調査を中断し、女性に対し調べ方をレクチャーすることにした。私たち司書にとって、最も望ましいのは、相談者ひとりひとりが自分で調べられる力を身につけることである。ひとつの薬について調べ方を教えると、「ちょっと自分で調べてみてもいいかしら」と早速次の薬を調べ始めた。思わず「珍しいですね。普通はみなさん面倒くさりますよ」と言うと、女性は笑顔で「生きているうちに色々な世界を知りたいの。私にとっては、こんな些細なことさえも、知らない世界への入り口なのよ」と言うのである。

以前「図書館のカウンターは世界につながっている」と言った同僚がいたが、まさにその言葉を体現化した瞬間だったように思う。その女性の病気が実際どれくらい進行しているのかを知る由はなかったが、「生きているうちに色々な世界を知りたい」という言葉には胸に迫るものがあった。そして、私たち司書はただ単に情報を提供しているだけでなく、時と場合によっては、目前の人に「世界」を手渡していることを気づかされた出会いでもあった。図書館で繰り返られる出会いは、基本的に「一期一会」である。それは本との出会いであったり、人との出会いであったり様々であるが、私があ的女性にもう二度と会えないことは明白の事実である。しかし、その出来事を私は一生忘れないだろうし、女性にとっても「世界の一部」としていつまでも残り続けることを信じている。

くすりの散歩道

NO.82

足がつる方 ご相談ください

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当
津川 真弓(Tsugawa Mayumi)



スポーツをしている時や、立ちっぱなしの仕事中、あるいは夜眠っている時に、突然、足がつる、いわゆる「こむら返り」の激しい痛みにおそわれてかたまってしまったことはありませんか?足がつる状況や頻度、痛みの強さに差こそあれ、多くの方がどこかで一度は経験されているのではないかと思います。一度起こるとくせになりやすく、悩まされている方も多いのではないのでしょうか。私もそのひとりです。

こむら返りとはふくらはぎの筋肉(腓腹筋)の異常収縮で、ふくらはぎだけでなく、足首や太腿、土踏まず、指、首、肩など、いろいろな筋肉で起こるそうです。ふくらはぎで起こるケースがもっとも多いようですが、私の場合は土踏まずです。加齢とともに起こりやすく、男性よりも女性の方が起こりやすいと言われています。

スポーツをしている時や通勤などの日常生活に起こるものは、一過性で、症状が治まれば、何事もなかったように元の状態に戻ることが多い一方で、就寝中に起こるものは、一度起こると繰り返し起こりやすくなる傾向があるそうです。残念ながら私は後者です。就寝中に七転八倒し、自分のみならず家族の安眠を妨害して迷惑をかけてしまいました。家族のみならず、皆様の貴重な税金の無駄使いをしてしまい深く反省しています。

それ以来、予防に極力努めるようになりました。履きなれていない靴を履いたり、ショッピングでたくさん歩いたり、足を使ったと実感した時はストレッチを意識的に行うよう心がけています。これで大分寝ている時のこむら返りを防ぐことができているように感じます。また、ある程度痛みが治まったら、蒸しタオルなどで暖めてやると回復が早い気がしますし、再発予防にもなるそうです。こむら返りに効くとされているツボもいろいろありますが、そのひと

つに足裏ど真ん中の「足心」という場所があり、このマッサージが私にはよく効きます。

予防には規則正しい食生活の中でミネラルやビタミンの摂取を心がけること、筋肉を疲労させたらその疲れを残さないように対処しておくことだと思います。人によっては体質が関係し、どうしてもこのような予防法だけでは対処できない場合もあるかもしれません。そんな方には、予防のみならず、症状を緩和する即効性のある漢方もあるようです。しかし足がつる原因は、筋肉の疲労、運動不足、水分不足や体液中の電解質の異常、成長期や妊娠中といった一過性で心配のないものから、椎間板ヘルニア、糖尿病、動脈硬化、甲状腺異常などの疾病、降圧剤、抗高脂血症剤、ホルモン剤などの副作用など、人によってさまざまです。服薬前には医師・薬剤師に相談し指示を仰ぐようにしましょう。受診する時間がない方も、「足がつる方 ご相談ください」とポスター掲示した薬局が目につくはずですよ。

また、夜寝ている時のこむら返りの原因にはストレスや冷えもあるそうです。冷えやストレスを強く感じると、血管が収縮して血行が悪くなり、血液が十分に行き渡らなくなるため筋肉が緊張状態となり、こむら返りを起こすそうです。全身の血行を良くしたり、深い睡眠を得るためにも、適度な運動が大切なんですね。

こむら返りは、ストレスや身体にガタが来ているというサインかもしれません。たかが「こむら返り」と思って軽く見ないで、日頃の食生活を見直したり適度な運動をするなど、生活習慣を改めて、健康な毎日を送ることができるよう心がけたいものですね。

おすすめの 一冊

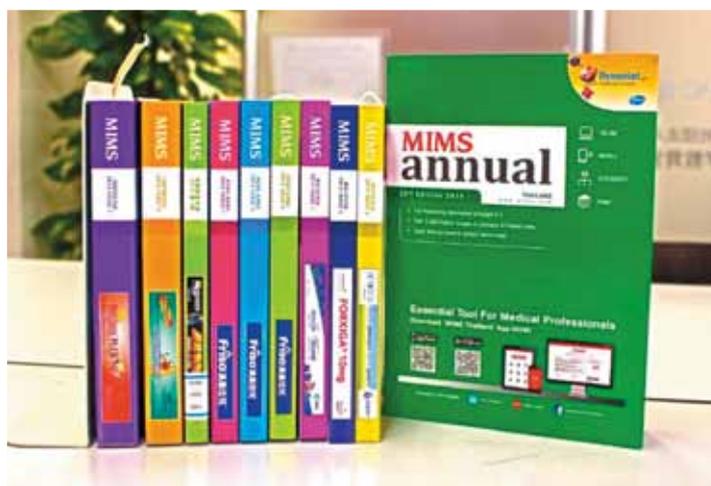
JAPIC 所蔵の書籍のご紹介 ～海外の医薬品集編～

■ アジア各国の医薬品集 (MIMS・MIMS Annual) を受け入れました

2014年度のMIMSを一部受け入れたので、ご紹介したいと思います。

MIMSシリーズはイギリスだけでなく世界各国の医薬品集を刊行しており、アジアでも多く制作されています。MIMSはAnnual(年鑑)と年に複数回刊行される小冊子版がありますが、今回はタイのAnnualとインドネシア・中国・マレーシア・香港の小冊子版を受け入れました。

MIMSに薬価が掲載されているかどうかは国により異なります。また、Annualには薬価が掲載されていない国でも、“小冊子版”には記載されていることがあります。今回受け入れた国では、中国とインドネシアの“小冊子版”に薬価が記載されていましたが、どちらもAnnualには薬価は記載されておりません。なお、薬価の記載のある国でも、全ての医薬品に記載されているわけではありません。



出版国	書名	言語
インドネシア	MIMS INDONESIA 127th-128th Edition 2014	英語
タイ	MIMS Annual THAILAND 26th Edition 2014	英語
中国	MIMS 中国薬品手冊 第38版 第1冊 2014	中国語
香港	MIMS HONG KONG 137th - 139th Edition 2014	英語
マレーシア	MIMS MALAYSIA 136th - 138th Edition 2014	英語

JAPIC 附属図書館は日本で最も多くの海外の医薬品集を収集している図書館です。
一般公開ですので、どなたでもご利用いただけます。受付カウンターで入館手続きをお済ませの上、お入りください。
(※貸し出しはいたしませんので、ご了承ください。)

開館日/時間：月～金 9:00～17:30

休館日：土・日・祝祭日、年末年始(12月29日～1月4日)

[お問合せ先] 図書館部門

TEL 03-5466-1827 E-mail: tosho@japic.or.jp

☐ JAPICサービスの紹介 ☐

JAPIC Daily Mail (JDM) サービス

—医薬品・医療機器等の安全性に関する海外及び国内の規制措置情報を提供

JAPIC Daily Mail (JDM) サービスとは・・・

医薬品の市販後調査の基準に関する省令〔医薬品GPMSP（現GVP/GPSP）〕の一部改正に伴う外国措置情報の収集等の業務支援を目的として、平成13年5月より製薬企業会員を対象に開始したサービスです。

◇外国の最新の安全性措置情報を提供

医薬品・医療機器の製造、販売等の中止、表示改訂（「BOXED WARNING」、「CONTRAINICATION」、重要な使用上の注意の改訂等）、回収情報等、安全性に関する措置の情報を選択し、日本語概要、該当原文のURLをつけて、毎日（JAPIC営業日）電子メールで提供します。

◇情報収集は8カ国2機関約80サイトから

米国FDA、EU/European Medicines Agency、英国MHRA等、8カ国2機関（米、英、独、仏、豪、カナダ、スウェーデン、ニュージーランド、EU、WHO）及び日本の規制当局等のホームページ約80サイトを毎日（JAPIC営業日）チェックしております。

◇「プレ送信」と「本送信」の2種類のメールを提供

「プレ送信」は午前中に、当日提供予定の外国の措置情報を、日本語概要を加えずに原文のまま送信し、迅速な情報提供を求めるユーザー様のご希望にお応えしています。

「本送信」は午後、日本語概要を加えて送信します。

<プレ送信>



<本送信>



特長

◇主に外国における安全性措置情報の収集に役立ちます。

外国における医薬品・医療機器等の安全性に関する措置情報の迅速な入手及び関連医薬品・医療機器等の対応ツールとして高い評価をいただいております。また、外国だけでなく国内の措置情報の収集にも役立ちます。

◇措置情報の収集労力と費用の節減になります。

◇情報収集のためのサイトは随時見直し・追加をしています。

◇データベースiyakuSearch PlusのJAPIC Daily Mail (JDM) DBから、2004年以降の記事の検索なども可能です。

◇無料トライアルを行っております。

JAPIC Daily Mail Extra (JDMエクストラ) サービス

—JDMの内容から個別の医薬品・医療機器に関する情報を選択提供

JAPIC Daily Mail Extra (JDMエクストラ) サービスとは・・・

JDMの内容からご登録いただいた医薬品・医療機器についての情報を選択して個別に提供するサービスです。平成21年度より開始しました。

◇ご登録いただいた医薬品・医療機器に関する情報をメールで提供

JDMサービスご利用ユーザー様を対象とし、JDMで提供した内容から、ご登録いただいた医薬品・医療機器に関する情報を検索し、検索結果及び該当記事をメールにて提供します。

◇該当原文中の医薬品名・医療機器名についても検索でき、より網羅的な情報収集が可能（ただし、該当原文がテキスト認識できる場合に限る）

特長

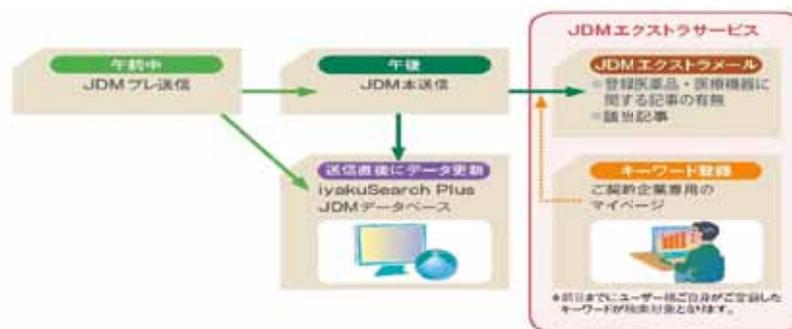
◇毎日のJDMの確認における見落とし防止として、補完的にご利用ください。

◇マイページにて医薬品名・医療機器名（キーワード）をご登録いただけます。

このサービスをご利用いただくユーザー様には、Web上の専用マイページにて、ご自身で医薬品名・医療機器名をご登録いただけます。

◇検索履歴や登録された医薬品・医療機器をマイページで管理できます。

検索結果及び該当記事は、メール（エクストラメール）での個別提供に加え、マイページにおいても確認することができます。



JAPIC Daily Mail Plus (JDM Plus) サービス

—生物由来製品に関する感染症情報を提供

JAPIC Daily Mail Plus (JDM Plus) サービスとは・・・

国内外の有用なWebサイトを調査し、生物由来製品の由来となる生物、原材料、原料又は材料から人に感染すると認められる疾病に関する情報（新規感染症、既知感染症の発生頻度の増加、新規感染経路、生物由来製品による感染症の発生等）を電子メール（Excelファイル）により原則として週1回、月曜日に提供するサービスです。

◇日本語の概要に該当原文へのリンク、キーワード（感染症、動物種）を加えて提供

◇情報収集は各機関の約50サイトから

WHO、OIE、EU、各国機関（米、英、カナダ、独、仏、豪、スウェーデン、日本など）の約50サイトをチェックしています。

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2014年10月1日～10月31日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.472-476)の記事から抜粋

■米FDA

- opioid鎮痛剤およびbenzodiazepineの薬物乱用に関連した救急科への受診および薬剤関連の死亡におけるalcoholの関与—米国、2010年
<http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm6340a1.htm?s_cid=mm6340a1_w>
- Dear Healthcare Provider Letter : GSKワクチン製品のシリンジおよびバイアルにあるロット固有の情報が退色する可能性について
<<http://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/SafetyAvailability/UCM418974.pdf>>
- LASIK Quality of Life Collaboration Projectについて
<<http://www.fda.gov/MedicalDevices/ProductsandMedicalProcedures/SurgeryandLifeSupport/LASIK/ucm190291.htm>>
- 業界およびFDAスタッフ向けガイドライン：呼吸器検体における結核菌群の抗生物質耐性に関連した遺伝子変異および結核菌群検出のための核酸ベースの体外診断用製品 (Class II Special Controls Guideline)
<<http://www.fda.gov/downloads/MedicalDevices/DeviceRegulationandGuidance/GuidanceDocuments/UCM419468.pdf>>

■Health Canada

- diclofenac—心臓および脳卒中に関する安全性情報の更新と、錠剤および坐剤の1日最大推奨用量の低減
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2014/41701a-eng.php>>

■英MHRA

- 英MHRAは緩下剤について声明を発表
<<http://www.mhra.gov.uk/NewsCentre/Pressreleases/CON467366>>

■独BfArM

- ponatinib (Iclusig) : 欧州のリスク評価手続きを背景としたPRACからの勧告について
<http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RV_STP/RV/RV-ponatinib-iclusig.html>
- testosterone含有医薬品 : 欧州のリスク評価手続きを背景としたPRACからの勧告について
<http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RV_STP/RV/RV-testosteron2.html>

■仏ANSM

- domperidone含有医薬品 : CMDhの2014年9月会合からの情報
<<http://www.anism.sante.fr/S-informer/Actualite/Medicaments-contenant-de-la-domperidone-retour-sur-la-reunion-de-septembre-2014-du-CMDh-Point-d-information>>
- FACTANE (human coagulation factor VIII) 200 UI/mLの提供について : 新しい濃度に伴うリスク ; 医療専門家向けレター
<<http://www.anism.sante.fr/S-informer/Informations-de-securite-Lettres-aux-professionnels-de-sante/Mise-a-disposition-de-FACTANE-200-UI-mL-Facteur-VIII-de-coagulation-humain-Risques-lies-a-la-nouvelle-concentration-Lettre-aux-professionnels-de-sante>>
- ホルモン性緊急避妊薬 : ベネフィット・リスク比は女性の体重に関係なく好ましいものであると欧州委員会が判断したことに関する情報
<<http://www.anism.sante.fr/S-informer/Actualite/Contraception-d-urgence-hormonale-rapport-benefice-risque-juge-favorable-par-la-Commission-europeenne-quel-que-soit-le-poids-de-la-femme-Point-d-information>>
- Methadone AP-HP (methadone) 製品の処方最大期間が変更されることについて
<<http://www.anism.sante.fr/S-informer/Actualite/Modification-de-la-duree-maximale-de-prescription-des-specialites-Methadone-AP-HP-gelule-Point-d-Information>>
- 合成成長ホルモン (somatropin) : これら薬剤の長期安全性に関するモニタリングについて
<<http://www.anism.sante.fr/S-informer/Actualite/Hormone-de-croissance-synthetique-somatropine-suivi-de-la-tolerance-a-long-terme-de-ces-medicaments-Point-d-information>>
- oxycodoneの使用に関連するリスクについて
<<http://www.anism.sante.fr/S-informer/Actualite/Risques-lies-a-l-utilisation-de-l-oxycodone-antalgique-opioide-de-palier-III-Point-d-information>>

■豪TGA

- 非ステロイド性抗炎症薬およびdiclofenacのレビュー : 安全性に関する注意喚起
<<http://www.tga.gov.au/safety/alerts-medicine-nsaid-diclofenac-141007.htm#.VDNHTFwFnU>>
- Trasylol (aprotinin) : 豪TGAはTrasylolに関連した致死的な有害事象についての最近のメディア報告を認識している
<<http://www.tga.gov.au/newsroom/btn-trasylol-141014.htm>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報(海外)担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介 : <<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

【新着資料案内 平成26年10月1日～平成26年10月31日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著編者	出版者	出版年月
European Pharmacopoeia 8th edition Supplement 8.4	Council of Europe	Council of Europe	2014年10月
MIMS Annual Thailand 26th Edition 2014	Ng Hui Ping, et al.	TIMS (Thailand) Ltd	2014年
MIMS HONG KONG 137th Edition 2014		CMPMedica Pacific Limited	2014年
MIMS HONG KONG 138th Edition 2014		CMPMedica Pacific Limited	2014年
MIMS HONG KONG 139th Edition 2014		CMPMedica Pacific Limited	2014年
MIMS Indonesia 128th Edition 2014		CMPMedica Asia Pte Ltd	2014年
MIMS MALAYSIA 136th Edition 2014		CMPMedica Pacific Limited	2014年
MIMS MALAYSIA 137th Edition 2014		CMPMedica Pacific Limited	2014年
MIMS MALAYSIA 138th Edition 2014		CMPMedica Pacific Limited	2014年
MIMS 中国薬品手冊 第38版 第1冊 2014		CMPMedica Pacific Limited	2014年
Supplement II to The Japanese Pharmacopoeia Sixteenth Edition	The Ministry of Health, Labour and Welfare	厚生労働省	2014年10月
関節リウマチ 診療ガイドライン2014	日本リウマチ学会 編	メディカルレビュー社	2014年10月
人獣共通感染症 改訂版	木村 哲、喜田 宏 編	医薬ジャーナル社	2011年2月
日英対訳 日本における医薬品のリスクマネジメント 第2版	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 企画・編集	じほう	2014年10月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第60巻 平成25年2月承認分、平成25年3月承認分-1	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2014年10月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第61巻 平成25年3月承認分-2、平成25年4月承認分、平成25年5月承認分、平成25年6月承認分-1	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2014年10月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第62巻 平成25年6月承認分-2	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2014年10月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第63巻 平成25年6月承認分-3、平成25年8月承認分、平成25年9月承認分-1	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2014年10月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第64巻 平成25年9月承認分-2、平成25年11月承認分、平成25年12月承認分	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2014年10月

情報提供一覧

【平成26年11月1日～11月30日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	http://database.japic.or.jp/
1. [JAPIC Pharma Report-海外医薬情報]	11月7日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. [添付文書入手一覧] 2014年10月分 (HP定期更新情報掲載)	11月1日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. [JAPIC NEWS] No.368 12月号	11月28日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.956-959 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス)	毎 週	5. 臨床試験情報	随 時
2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]	毎 週	6. 日本の新薬	随 時
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	毎月第一水曜日	7. 学会開催情報	月 2 回
4. [外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.3280-3297	毎 日	8. 医薬品類似名称検索	随 時
5. [JAPIC Weekly News] No.476-479	毎週木曜日	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
6. [Regulations View Web版] No.298-299	11月14日・28日	〈iyakuSearchPlus〉 http://database.japic.or.jp/nw/index	
7. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.566-569	毎週月曜日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
8. [PubMed代行検索サービス]	毎月第一・三水曜日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
9. [JAPIC医療用医薬品集2015] 更新情報2014年11月版	11月28日	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
		4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月 2 回
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈JIP e-infoStreamから提供〉 https://e-infostream.com/	
		〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉 http://jdream3.com/	
		〈株式会社日本経済新聞デジタルメディア日本テレコンから提供〉 http://t21.nikkei.co.jp/	

平成10年1月～平成25年12月承認分までの審査報告書の全文を収録!

日本の新薬

全64巻

— 新薬承認審査報告書集 —



B5判

◆最新の5巻を平成26年
10月下旬に刊行。全64巻に!!

新薬69品目を追加し、全巻では867品目を掲載。

各巻22,000円(+税)

◆本書は、新薬の承認審査における厚生労働省の『審議結果報告書』および(独)医薬品医療機器総合機構等の『審査報告書』をすべて収録しており、

**新薬開発、薬事・市販後対応、
医学・薬学教育に!!**

◆お得で便利なセットでの購入をお勧めします!!

全64巻セット 1,408,000円(+税)のところ、半額の **704,000円(+税)**

追加分5巻セット 110,000円(+税)のところ、半額の **55,000円(+税)**

一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行 TEL 0120-181-276
Japan Pharmaceutical Information Center
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

Garden

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

ぽいんせちあ

別名しょうじょうぼく(猩々木)。学名: *Euphorbia pulcherrima* Willd. ex Klotzsch。英名: Christmas Flower。どうだいくさ科どうだいくさ属。

原産地メキシコ。常緑低木。明治時代に移入。赤に色づく葉は苞葉、ひとつの雌花と複数の雄花があり雌花は3つに分かれた柱頭を持つ。葉や茎で皮

● 膚炎を起こすという。β-Amirin、Pulcherrol等トリテルペン含有。(hy) ●



JAPICホームページより
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。